

「隔離病舎と伝染病予防宣伝歌」

前号で紹介した曲谷の弘法井戸には案内板がありません。知る人ぞ知るといふ存在なのかもしれません。しかし、約200年前に編纂された『紀伊続風土記』には、「曲谷地蔵堂の西岸根にあり。水清冷、乾旱に涸れず、大師の作る所」と記されていて、当地では有名な井戸でした。井戸は国道370号線沿いにあり、現在も水を湛えています。

明治末期、感染症対策として井戸の消毒だけでなく隔離病舎が設置されています。『東野上町誌』によると、「明治40年5月、動木に病舎1棟、事務所1棟を新築し、翌年6月またも1棟増築せり」とあります。隔離病舎は、それぞれ21坪と20坪で、事務所は6坪の広さでした（1坪は、畳2枚分）。残念ながら、隔離病舎が動木のどこにあったかは分かりません。

加えて、明治45年、下佐々に火葬場が新設されています。「これまで埋葬のみなりしゆえ、一朝伝染性死亡者等の場合の困難を除くに至れり」とあり、動木に次いで下佐々で火葬ができるようになったことで、感染死亡者に対する不安や心配が一朝、すなわち短い期間で消えていったようです。

極めつけは、東野上小学校・東野上婦人会が作った伝染病予防宣伝歌です。

- 1 人は病の器とや 殊にこの頃 腸チフス
赤痢 コレラと様々の 伝染病の恐ろしさ
- 2 病にかからぬ 第一は 氷 生水 飲まぬよし
大食 無駄食い せぬがよい 口養生をつつしめよ
- 3 夜更や ふとんは日にほして シャツの洗濯 怠るな
病は常に油断する 人のからだに 食い入るぞ
- 4 部屋の掃除は 尚のこと ハシリ 下水も時にはけ
鼠や 蠅は 伝染の かたきと思ひて 取りつくせ
- 5 万病に罹りなば 直ちに医師の力かれ
家内にうつらぬその内に 隣に広めぬ そのうちに
- 6 されば町民一致して 予防治療を怠らず
病を除き 幸を得て 共に励まん 町の為



曲谷の弘法井戸

（令和6年8月14日）